

平和と民主主義のための建設の会

# 建設の会ニュース

2016年9月28日発行 第3号

平和と民主主義のための建設の会

実行委員会

編集：高田桂子

Mail:katurakot@icloud.com

## もうすぐ1年！！

## 『建設の会』 平和と民主主義の旗を掲げて

### 2015年11月1日、有志で「建設の会」を立ち上げ

戦争放棄・戦力不保持を高らかに謳った憲法9条があるにもかかわらず、それを国会の数の力で踏みにじり、集団的自衛権を認める安全保障法制(戦争法)を強引に押し通した、安倍自公政権の暴挙から1年が経過します。

2015年9月19日未明、その前日から国会前に座り込み、国会内でたたかう野党議員を励まし、共にたたかったあの時を鮮明に記憶している人も多いのではないのでしょうか。

そして、この日を決して忘れない！！ 必ず安保法制を廃止させ、集団的自衛権行使容認の閣議決定を撤回させるぞ！！と強い決意を持った建設の有志が、その1ヶ月半後の11月1日、「平和と民主主義のための建設の会」(略称『建設の会』)を立ち上げました。有志で実行委員会を結成し、まず会の名称を決め、ノボリを作り、毎月19日の国会前集会に結集し、声をあげることからスタートしました。



### 安全保障関連法を廃止し、立憲主義を回復する政府をつくることを活動の目的に

そして、会の趣旨や目的をどこに置くのか、ケンケンガクガクの議論の末、「憲法違反の安全保障関連法(戦争法)を廃止し、憲法違反の集団的自衛権行使容認の閣議決定を撤回させ、立憲主義を回復する政府をつくることを目的に、これが実現できるまで会の活動を行う」ことを決めました。



『建設の会』の主な任務は、建設の設計や施工現場で、仕事に追われ毎日忙しく働いている建設関係者と情報交換し、戦争への道を進む安倍政権の実態を知らせ、この目的への賛同者を広げ、建設関係者同士の共同の大きな輪をつくっていくことです。

## 建設関係者などに「建設の会」の趣旨への賛同を呼びかけるとりくみ

この間、2000 万人署名や駅頭宣伝、学習会などに取組みつつ、建設の労働組合や業者、技術者、設計者およびそのOBなどに賛同者を広げ、2016 年 9 月現在、賛同者は 130 名に達しています。しかし、建設関係の第 1 線で忙しく働いている多くの人たちのところに、メッセージを届けるまでには至っていません。ここをどのように突破するのか、結成 2 年目の大きなテーマになっています。

## 参議院選挙の結果を踏まえた「建設の会」の新たなとりくみ

7 月の参議院選挙では、安保法制廃止・立憲主義回復を求める幅広い市民と野党との共同の結果、戦後初めて野党と市民の選挙協定のもと、32 の一人区に野党統一候補を立てることに成功し、そのうち 11 名が当選するという歴史的快挙を成し遂げました。1+1 が 3 にも 4 にもなるという共闘の実績がつくられました。

一方、安倍政権の“改憲かくし”の参議院選挙の結果は、改憲勢力に両院で 3 分の 2 以上の多数議席を許すことになり、国会での改憲発議が可能と言う重大な局面を迎えることになりました。安倍首相は選挙後、「憲法審査会を再開し、どの条文をどのように変えていくか議論していく」と述べています。

『建設の会』では、改憲をめぐる緊迫した情勢を踏まえ、実行委員会において以下の三本柱のとりくみを決めました。

### 1. 学習会の定期的（原則 2 か月に 1 度）開催

（1 回目の案内チラシは後ろに添付）

\* 参加できない方には後ほど「建設の会ニュース」に概要を掲載します

### 2. 旺盛な情報発信、情報交換

・『建設の会』のフェイスブックに投稿、拡散

\* Net で「平和と民主主義のための建設の会 Facebook」と検索すれば開けます

・「建設の会ニュース」の定期発行

\* 投稿自由、賛同者を通じてメールで拡散

・『建設の会』のブログを作成、より広く拡散

### 3. リニューアルした賛同文書で賛同者の旺盛な拡大

（新しい賛同文書・署名用紙は後ろに添付）

・建設関係のさまざまな団体に呼びかけ賛同者の大胆な拡大

・賛同者になるメリットをわかりやすく提供

・賛同者が新しい賛同者をつくるネズミ算式拡大

この「建設の会ニュース」には賛同者の方ならだれでも投稿できます。

政治・経済・社会問題への意見・批評、職場など身の回りのできごと、旅行や俳句・短歌など趣味の紹介、随想その他諸々。 \* 必ずメールでお送り下さい。

A4 ワード文書 1 枚程度（文字は 1400 字まで、見出し 写真・カット付）

送り先 [高田 katurakot@icloud.com](mailto:katurakot@icloud.com) 又は [辻村 tu4177@icom.zaq.ne.jp](mailto:tu4177@icom.zaq.ne.jp)

以下はリニューアルした賛同文書と署名用紙です。ご活用ください

## 『平和と民主主義のための建設の会』は 安全保障関連法の廃止・立憲主義の回復をめざします

2015年9月、多くの国民の反対の声を無視して成立された安全保障関連法（戦争法）は、憲法9条に違反して集団的自衛権を容認し、アメリカが引き起こす戦争に自衛隊が米軍とともに他国の戦闘地域にまで出かけ、武力行使することを認めるものです。

2016年3月29日には、安全保障関連法の施行が強行され、11月にも南スーダンでPKO活動に派兵する陸上自衛隊に武器を使用する「駆け付け警護」の任務を与えようとしています。自衛隊員が殺し殺される事態が起これば、日本は戦争をする国になります。

さらに安倍政権は、憲法との矛盾を解消するため、任期（2018年）中の明文改憲に言及し、主権在民から国家主権に、緊急事態条項の創設、国防軍の設置などを目論んでいます。

この7月の安倍政権の“改憲かくし”の参議院選挙の結果は、改憲勢力に両院で3分の2以上の多数議席を許すこととなり、国会での改憲発議が可能という重大な局面を迎えることになりました。安全保障関連法の廃止・立憲主義回復をめざす野党と市民の共同の勢力は、憲法を破壊し、国民の自由と民主主義を奪い戦争への道に突き進む安倍政権を退陣に追い込むため、地域から職場から共同の輪をさらに広く大きくしていく必要があります。

### 建設の仕事に関わっているみなさん

戦争は人々を傷つけ殺すだけでなく、私たちが心を込めて建設した住宅やビル、施設をも破壊してしまいます。また、軍事予算の急速な拡大を招き、消費税の増税や社会保障などの切り捨て、国民が求める生活や福祉、防災などに関係する建設事業は削減されます。建設労働者・技術者・業者は自衛隊・米軍への民間協力を求められ戦争施設の建設に携わる可能性も生じ、海外の建設事業に携わる技術者・技能者は、テロの犠牲になる危険も生じかねません。

建設の仕事は、戦争をしない平和な国であってこそ成り立ち、建設産業は国内外の人々の生活の向上や安全で安心して暮らせる住宅建築や国土づくりを行う平和産業です。

### 有志で『平和と民主主義のための建設の会』を立ち上げました

2015年11月01日、建設の設計や工事などに従事する有志で、『平和と民主主義のための建設の会』（略称『建設の会』）を立ち上げました。

『建設の会』は、憲法9条を掲げる日本がアメリカの行う戦争に加担しないように、また、建設従事者が戦争に巻き込まれることのないように、憲法違反の安全保障関連法（戦争法）の廃止をめざします。そして、安倍政権がもくろむ9条を含む憲法の明文改憲を許しません。そのため、野党と市民の共同をいっそう広げ強固にし、安倍政権を退陣に追い

込むとともに、安全保障関連法を廃止し、立憲主義を回復する政府をつくるまでさまざまな取り組みを行っていきます。

### 『建設の会』の趣旨に賛同のお願い

『建設の会』実行委員会では、日頃仕事に忙しくされている方にも趣旨をご理解いただき、賛同者を増やしていきたいと考えています。

趣旨に賛同される方は、別添「私は『平和と民主主義のための建設の会』の安全保障関連法廃止・立憲主義回復の趣旨に賛同します」にご記入、メッセージをお願いします。また、お知り合いなどに広げていただくようお願いいたします。記入した用紙は下記の連絡先までメールまたはファックスでお送り下さい。

「平和と民主主義のための建設の会」実行委員会一同

取扱い者 \_\_\_\_\_

連絡先 Fax \_\_\_\_\_ Email \_\_\_\_\_

私は『平和と民主主義のための建設の会』の  
安全保障関連法廃止・立憲主義回復の趣旨に賛同します

1. 氏名 \_\_\_\_\_

2. メールアドレス \_\_\_\_\_

3. お住まいの市区町村 \_\_\_\_\_

4. 建設関係の所属（○の中にレを入れて下さい）

- 設計・コンサル関係     ゼネコン関係     専門工事関係  
 建設資材関係     建設公務員関係     NPO 関係  
 建設、公務員関係 OB     その他

5. わたしのメッセージ

\* 安保関連法制廃止へのあなたの意見・思いを自由に記入してください。

定期学習会（第1回）を下記のとおり開催します。ぜひご参加ください。

=立憲主義を壊し、戦争できる国づくりは、国民にどんな暮らしをもたらすか=  
**今、自民党改憲草案は居住の権利を  
どう壊そうとしているのか…**

# 憲法から居住権を考える

安倍政権のもと平和と主権在民・基本的人権を保障する憲法が、危機に立たされています。

「平和と民主主義のための建設の会」では、改憲を許さず民主主義・立憲主義を回復するため、定期的学習会を企画しています。今回はその第一回となります。

誘いあってご参加ください！！

○と き：10月17日(月)

午後5時30分開場、6時開会、8時終了

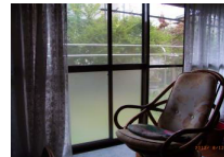
○ところ：けんせつプラザ東京

5階B会議室

NPO 法人建築ネットワークセンター理事長

○講師：小川 満世氏

※資料代  
500円



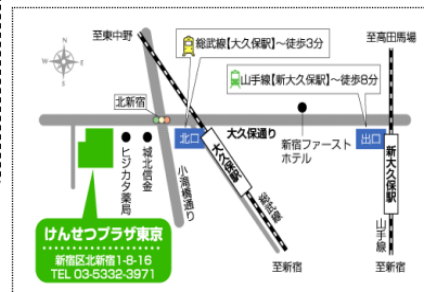
## 【講師プロフィール】

1934年 生まれ  
1962年 武蔵工業大学短期大学部建築学科卒  
1962年 東京都住宅局就職  
1981年 東京都職員労働組合住宅局支部長  
2000年 東京都住宅局退職  
2000年 生協・消費者住宅センター設計顧問

主催：平和と民主主義のための建設の会  
世話人連絡先 辻村 - 090-3405-1463  
星野 - 090-1667-5051 塚本 - 080-1349-2715  
高田 - 090-6301-5862 秋葉 - 090 - 3041-4757

## 【会場案内・交通機関】

JR 総武線・大久保駅北口下車



## 『建設の会』賛同者からのメッセージ



この1年の間に、『建設の会』の趣旨に賛同する人たちも増えてきています。そして、力強い感動的なメッセージも寄せられています。

本人の了解を得て、『建設の会ニュース』で少しずつ紹介をしていきます。

昭和19年生まれの私は、戦争なんて考えなかった。それが70を過ぎた今、「戦争」が目の前に現れた。敗戦直後は先生方が「再び子供を戦場に送らない」の気概に燃え、平和教育を実践してきた。父や母も「2度と戦争は嫌だ」と育ててくれた。遠いものと思っていた「戦争」が、あれから70年経つと復活してしまうのか。ボヤボヤしている場合でない。平和ボケになっている同年代に呼び掛けないと。「子や孫が戦場へ送られると」

(鵜野真勝)

平和であつての建設産業、まったく同感です。戦争は人を殺す事が前提ですから、とても人間の心を持っていたのでは、務まりません。軍隊は上に従うことを絶対とすることを強要し、人間性を破壊します 破壊された人々は、戦争が終わってからも心の傷は癒えず、家族を犠牲に家庭をも破壊し続けました私の父は左官でした。今生きていたら100歳になりますが、左官職人としては職人仲間からも尊敬されていましたが、父としては失格で借金と生活苦、暴力で家庭を破壊しました。そして私の心も破壊しました。戦後間もない時代に生きた人々の多くは、私のような体験をした人が多いと思います。私は父を憎みました。しかしその背景に戦争があったことを知った時から、戦争を起こし、続けた社会を憎み、変革に関わったと思います。いまは、子供やその奥さん、孫がそのような社会の犠牲にならないように願うばかりです。

(表木五郎)

建設関係にずっとかかわってきた私としても、建設の仕事は平和を築くために発揮するもので、平和を破壊するために利用されることのないよう、これからも共に力を尽くしていきたいと思います。

(松本きよみ)

建設の会の創立を熱望していました。平和なくして建設はありません。命をかけて平和を守りたい。日本の国土・技術、青年、財政がアメリカの世界戦略に組み込まれ日本国民が犠牲にされることに耐えられない。

(川口未夫)

## “戦争”を考える



新聞か雑誌か忘れたが、先日、あるマスコミ関係者が、国民の大多数が“戦争はいやだ”と思っているのになぜ安倍政権の支持率が高いのか、と問題提起し、その原因を二つ挙げていた。1つは、国民に戦争に対する想像力が欠如しているから。2つ目は、安倍政権になって強引に国会を押し通した、教育基本法の改定、特定秘密保護法、盗聴法、安全保障関連法など一つ一つが、どのように戦争につながっていくのか、国民が理解していないから。というものである。

これまでマスコミの世論調査が指摘する安倍政権の支持率の高さの要因と全く異質な指摘に、私は思わず納得してしまった。

先の戦争を体験・体感した人は、心の底から「二度と戦争はしてはいけない」という。戦中派の私は、実際は戦争を体験していない。だから本当の戦争の恐怖、残酷さを知らない。でも、戦争を想像することはできる。その媒体は映像であり、新聞であり書物である。

つい最近、私は戦没学生の手記を集めた「きけ わだつみのこえ」を読んだ。これまでにない衝撃を受けた。20歳前後の若者が大学生活から突如軍隊の兵舎に入り、毎日のように暴力を受け、死を義務付けられつつも、やり残した学問について考えている。そして生と死の狭間で冷静に生きようとしている。

高校生の頃だったか、「人間魚雷回天」という映画を観た。特攻隊員になった学生が、人間が操舵する魚雷に乗って敵の戦艦に体当たりするのだが、途中で故障し海の底に沈んでしまう。操舵席から動けない学生は、目の前に置いた家族の写真に語りかけながら、ただ一人海の底で息絶えるのを待っている。いまだに記憶に残っているほど、戦争の恐怖を感じた映画だった。

先のマスコミ関係者はこの夏、NHKの終戦特集で長野県の満州開拓団のドキュメンタリーを高く評価していた。そして、昨年に比較しても国民の想像力を高める番組がグンと減少したと指摘していた。同時に、彼が強調していたのは、第2の点である。安倍政権が「戦後レジームからの脱却」と称して国会で成立させた安保関連法や特定秘密保護法などが、先の戦争の教訓を踏まえ、新聞・テレビが戦争につながる問題性をどの程度報道してきたか。特にNHKテレビではほとんど報道してこなかった、と強く批判している。

いま、「戦争」が目前の現実問題となっているなかで、先の侵略戦争に国民をどのように誘導したのか、その教訓と対比して安倍政権の戦争への道がどこまで進んでいるのか、国民が深く理解のできる報道をするのが、マスコミの使命ではないだろうか。

二度と戦争をしないと誓い、戦争放棄と戦力不保持を謳った憲法を持つ日本において、安倍政権の危険な道を正面から批判し、国民が戦争の恐怖と残酷さ、非人道性を心の底から想像できるような報道を第1線で頑張るメディア関係者に期待したい。

(辻村定次)